

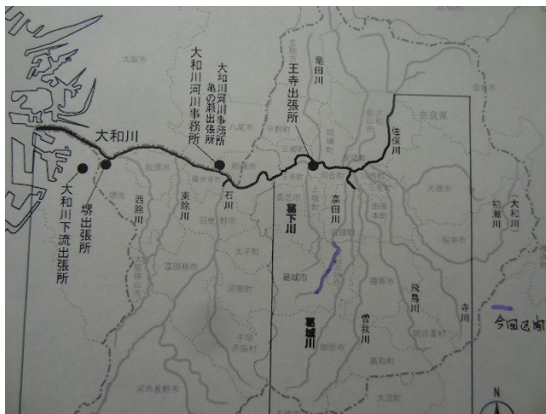
## 日本あちこち河川遡行記（第278回）

奈良1-6-1.高田川（その2） 令和1年7月26日（金）晴

昨日梅雨が明け本格的な夏到来！今日も暑いぞー。行きはいつもの「おとなび早特割こだま」で出かけるが、帰りはこの切符が取れず青春18切符使用として出かける。

高田川の続きなので3日前に帰路について近鉄大阪線「築山」駅に降り北東部の川に向かう。最初の橋からこれまでの広陵町から大和高田市に入る。高田市と称する高田は全国に多く、陸前高田、豊後高田、安芸高田もそれぞれ旧国名を付けている。その原因は今は無くなった新潟県の「高田市」である。直江津市と一緒に名前を上越市と言っている。おかげで本当は高田市と言いたかった古参の奈良の高田は悔しいだろう。同じ例は若松市でも有る。近鉄大阪線沿いには西から「香芝市」、「大和高田市」、「橿原市」、「桜井市」さらに「宇陀市」と続く。高田は大和平野中部の西側の中核都市で県の出先も多くあるようだ。市内には鉄道が3路線通り、市内中心部にそれぞれの駅が有り、近鉄大阪線は「大和高田」、南大阪線は「高田市」、JRはなんと「高田」である。越後の高田がなんぼのもんじゃー、である。

早速現れたマンホールの絵柄は地味なデザインで真ん中に市の木である「さざんか」の花が描かれている。よくあるパターンで面白くない。



01.今回調査区間位置図



02.大和高田市は市の木「さざんか」のようだ

川の水量は減り、濁り水も無くなり平常の状態に戻って流れている。3番目の橋である「神楽橋」に来ると、車道橋と歩道橋が二本並んで架かりどちらも桁はピンク色である。上流側の歩道橋の桁の外側に木製の高欄が端から端までぶら下がっている。何じゃこりゃ！ピンクが恥ずかしいので隠したのか、塗り替えが出来んではないか。



03.濁り水が綺麗な水に！



04.歩道橋の桁に木製高欄が

対岸の右岸側に渡り県道を南に向かうと直ぐに近鉄と JR の踏切が続く。複線標準軌の近鉄と単線狭軌の JR が近接して川を越えている。次の橋で交通量の多い県道から対岸の市道に足場を変える。川沿いには桜並木が続き助かる。今日はいつもの背に背負うリュックを止め、いつも使っている大きめのショルダーバッグにして背中に汗が溜まらないように用意して来た。汗が出ているときは痒みは無いが、帰宅し寝る頃になると猛烈に痒くなるのが辛い。日傘は橋の数が多く開け閉めが面倒なので今日は無しとして大きな帽子で代用する。

晴天の中快調に進むと西側から小さな支流が合流し、その合流部の二つの川の間が公園になっている。西側には三角形の大きな池も有る。「大中公園」と言うようで木陰のベンチで一休みする。隣りに小公園は無いのかな？今日は特別大きな魔法瓶を用意し冷たい麦茶を飲む。池の西側には神社の様な建物が池の中に佇んでいる。奈良の「不忍池」だ。



05.合流点の川の間は公園だ



06.池に浮かんだような建物

10分ほど休憩し再開する。公園の南側の国道 168 号からの入り口に絵地図が有ったのでカシャ。国道を横断しようと橋に来るとなんと橋の中央部に横断歩

道が有る。川の両側に道路が有り、どちら側を歩いてきても横断できるよう横断歩道を橋中央に設置し、両側の交差点の車の進行を円滑に出来るようにしたと考えておこう。



07.公園に有った絵地図



08.橋の真ん中に横断歩道が有るぞ

左岸側の道路の桜並木が両側に並び夏には有難や有難や！アッピア街道やローマの松は多分道を進む人を南欧の太陽から守ってきたのだろう。すぐに三番目の鉄道橋が現れ、踏切を渡ると直ぐに警報が鳴り遮断機が降りる。ついでにやって来た電車をカシャ。ごく普通の近鉄標準塗色である。



09.桜並木が涼しさをもたらしてくれる



10.今日三つ目の鉄道橋を電車が通過

道沿いに多くの実が色を付けだした大きな石榴の木が有る。彼方には梅雨明けの空に「葛城山」が聳えている。川にはこの葛城山系の東山腹からの川が合流してくる。二上山から金剛山に連なる山並みの東側からの流れは北側の始めは「葛下川」に向かい。中ほどはこの「高田川」に、そして南側は「葛城川」

に向かうと三河分権となっている。奈良平野に住む人にとっては最高峰の「金剛山」よりも「葛城山」の方が身近で存在感が大きいのだろう。



11. 石榴の彼方に葛城山が



12. 多くの支流が西から合流

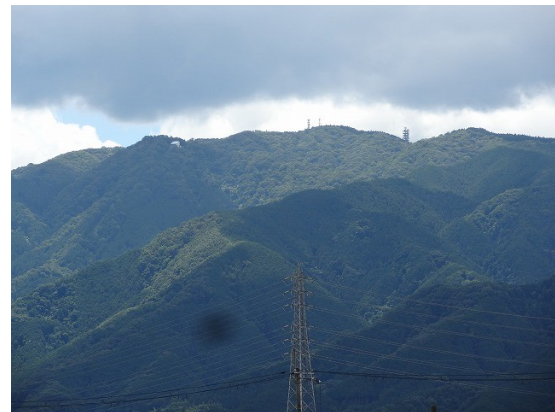
南からの流れが南西からの流れとなり川幅も狭くなってくる。川の左岸側を走る市道の西側に「奈良文化高校」と書かれた瀟洒な校門の前を通過する。手元の地形図では「奈良文化女子短大」と記載されているが高校に変わったようだ。やたら広い通学用の奈良交通のバス停広場が目立つ。

すぐに国道 165 号の高架橋に着き、広い日陰の高架下で暫し休憩する。心地よい風が橋の下を通過して行く。ここまで手元の温度計は 34 度を示し、熱中症の危険度は「嚴重警戒」と「危険」の一步手前を示していた。5 分ほどして高架下を抜け側道を越えると何と直ぐ近くにコンビニが有る。折角なので立ち寄りサンドの昼を摂る。冷房が効いているが先ほどの高架下の方が有難味が大きく効果満点である。

家並みが少なくなり、川は再び南からの流れになる。西の彼方の山並みが屏風のように連なり近くなる。葛城山の東側に上るロープウェイの山上駅もはっきり見える。



13. 川沿いの道の西に高校が



14. 葛城ロープウェイの山上駅が見える

「柿本」地区にやって来て遡行はここまでとして西側の近鉄御所線で帰るか、東側のJR和歌山線で帰るか思案する。18切符利用を最大限にするJRにして「大和新庄」駅に足を東に向ける。

700mほど歩いて駅に着く。駅前にはここ「葛城市」のコミバスのバス停が有る。バス停標識には葛城市のマスコットキャラが大きく描かれている。可愛いなー。帰宅して調べると名前は「蓮花ちゃん」とのことである。西和地区の各市町のコミバスはそれぞれが競争するかのようゆるキャラを生み出している王寺町の「雪丸」、河合町の「すな丸」、平群町の「高屋王と島左近」はこの遡行記でも紹介してきた。



19.大和新庄駅から帰路に



20.葛城市コミバスにもマスコットキャラが、西和はゆるキャラだらけ

1時間に1本の電車は奈良行き最新形式の2両ワンマン電車である。1両目3扉が乗車口で前の1扉が降車口であるが、駅出口に近い乗車口から出て来る輩が多い。高田でJR難波行き快速に同じホームで乗り換え天王寺に向かう。近鉄デパート地下で夕食の材料を買い、大阪、姫路、相生、岡山と八艘跳びをして帰る。



### 17.最新の227系2両ワンマンカーが到着

本日の歩行距離：7.2km。調査した橋の数：24。

総歩行距離：10,508.2km。総調査橋数：13,465。

使用した1/25,000地形図：「大和高田」（和歌山5号-2）、「御所」（和歌山6号-1）